

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 35

2020年9月29日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

## コロナ禍での学生支援

白梅学園大学・白梅学園短期大学 学生部長 松田佳尚

(発達臨床学科 教員／専門分野:赤ちゃん学、神経心理学)

ステイ・ホーム真っ只中の4月1日、新たに学生部長を拝命いたしました。誰も彼もが先を見通せず、学生や教職員は日に日にストレスを溜めていきました。本学は苦学生が多く、15人に一人が学費を全額自分で賄っています。また、32人に一人が生活費を全額自分で賄っています。それがコロナ禍でアルバイトを辞めたり時短になったり、さらに親御さん達も収入が減ったりで、大変な思いをしながら前期授業がはじまりました。誰も経験したことがない「オンライン授業」です。

そこで、本法人と最初に行った学生支援が、オンライン授業を受けるための環境整備補助金(一律3万円支給)です。5月末のことでした。その後、学納金納付期限の延期を実施、さらに学費や生活費を自分で賄っている学生を対象とした自立支援給付奨学金(10万円/人)を第1回(6月)、第2回(7月)給付しました。原資は教職員や卒業生、後援会、一般の方々の寄付金です。今で

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

も多くの方から温かいご寄付を頂いております。どうかこうにか前期の授業が終わってみると、一番つらい思いをしていたのは新入生でした。基本的に全てがオンライン授業でしたので、友達ができません。サークル活動や部活もできません。キャンパスライフを楽しめていないので、そもそも大学ってどんなところ？といった具合です。

次に不安をかかえているのは卒業学年。「もう不安しかありません。」私のゼミに所属する4年生が言いました。ただでさえ精神的につらい就職活動ですが、コロナ禍で雇用する側も先が見えません。7%の学生が休学を考え始めました。来年になれば収束するのではないかと考えているわけです。9月下旬から後期授業がはじまりますが、引き続きオンライン授業を中心としています。全15回授業の内、3回は大学に来る日を設定していますが、今後の国内情勢次第です。学生の中には、『大学の施設を使っていないのだから、施設費を返して欲しい』、『親の収入が減ったので学費を減額して欲しい』などの声が上がっています。一方で、教職員も慣れないオンライン授業や学生対応のため、通常の2倍以上の時間をかけて業務を行っています。休日や深夜の時間外労働分を入れるとなると、学費が跳ね上がるわけです。私自身も睡眠時間が2時間という日が多々あります。

こんなコロナ禍ではお互い様ということで学納金は据え置き、日本の多くの大学もこの問題を取り上げないのかもしれませんが、あくまで私見ですが。このような学生達のために、地域の皆様と一緒に支援できたら幸いです。表面的には「青信号」を装っていても、内実は「黄色信号」の学生は、声を上げません。青信号のフリをする

のです。その数は、「赤信号」の学生の何倍もいることでしょう。そのような学生に対して、本学は全く支援ができていません。ですから例えば、金銭面でなく、野菜の提供、食事の提供、炊き出しなど、何かアイデアがありましたら、是非、私までご連絡を頂けますと幸いです。何卒ご協力をお願い申し上げます。

# SFP でつながる学び

## 高校の「22 世紀しらうめフロンティアプロジェクト」の取り組み

### 白梅学園高等学校 教育研究部

### 市川 梓・神林 真理子

生徒の主体的・探究的な学びの場を作りたい。それが「SFP」―「22 世紀・しらうめフロンティアプロジェクト」を立ち上げたきっかけである。講師の人選に苦慮する私たちに救いの手を差し伸べて下さったのが本校の理事であり、小平で様々な活動をしていらっしゃる細江卓朗氏であった。氏の学生時代のご友人である京都大学医学部名誉教授の西川伸一先生をご紹介いただき、西川先生が生徒たちと「サイエンス」について自由に語り合うという形で 2018 年秋に第 1 回 SFP がスタートした。その後、学びの世界は広がり、今では世界の課題を学ぶための「JICA 地球ひろば」や「国立ハンセン病資料館」の見学、日本の伝統文化を知るための歌舞伎や東京国立博物館での体験、ジェンダーについての学習会など、多くの生徒が参加する場となっている。

先日、第 4 回 SFP「未来の科学とわたしたち」の探究発表会を開催した。昨年 9 月の西川伸一先生の講話を受け、生徒が個々に興味・関心に基づいたテーマを設定し、探究活動を進めてきた。その成果を今回 2 名の生徒が発表した。テーマは「遺伝子差別と保険制度」「ビッグデータについて」。

「現在の日本では、遺伝子情報の取り扱いに関する法律はありません。しかし、遺伝子検査技術の拡大は続いています。簡単に遺伝子情報にアクセスできる未来について、問題点も含めて考えておくべきです。」  
「ビッグデータは、人々の生活を豊かにするツールであるべきです。その実現のために、私たちにもできることが



あります。」  
彼女らの主張には、自分たちがこれからの時代を担い、22 世紀をつくりあげていくのだという強い意志があった。発表会には、西川伸一先生にもオンラインでご参加いただき、発表者と意見交換をする中で次のようなお話をいただいた。

「ビッグデータも遺伝子情報も、誰かが管理するという前提のお話でしたが、その価値観を変えていきましょう。工夫さえすれば、みなさん自身が地域や友人とネットワークをつくり、主導権をもって情報を集めたり管理したりできるようになると思います。」

SFP の活動によって、生徒の学びの芽は成長をしている。この後、どんな花を開かせるのだろうか。私たち教師はこれからも生徒の主体的な知の種を蒔く人であり続けたい。

# コロナ禍の高齢者施設

## —小川ホームの取り組み—

### 小林美穂(小川ホーム施設長)

新型コロナウイルス感染症の影響が福祉現場に広がる中、小川ホームでも高齢者の命と生活を守るために、職員は強い緊張感と責任感を持ち、日々頑張っています。そして、施設内にウイルスを持ち込まないを徹底す



るために様々な対策をしています。職員は出勤前と始業時に検温し記録、公共交通機関を避け自転車通勤に変更、食事や休憩場所の変更、事務所内の移動などソーシャルディスタンスに努めています。外部の方の入館は原則お断りさせて頂いており、ご家族の面会はオンライン又は外階段からのベランダにての飛沫防止シート越しの面会にさせて頂いています。ご家族との面会もままならないことで、辛い思いをされていることに心を痛めています。



こうした施設内のご利用者を守ることはもちろんですが、私たちは地域の方々への支援も重要な役割だと思っています。

今まで様々な地域活動を行ってきましたが、参加や交流を伴う事業や対面での活動はほぼ実施出来ませんでした。

また、住民の支え合い、助け合い、見守り等の活動も休止となり、地域のすべての集まりがストップしてしまいました。もちろん包括支援センターの相談窓口や緊急訪問などはしっかりとした感染対策を取り行ってきましたが、今までに作り上げたつながりを断たれた地域の方々がどうなってしまうのか心配で大変な焦燥感を感じていました。



しかし地域のつながりを守り、活かしていくために何ができるのか、今やれることをやってみようかと奮起し、「おれんじカフェ」「元気はつらつ小川の会」などの集いを少ない人数で回数を増やすなどの工夫をし再開、自宅で出来る体操や体操をしたらスタンプをするチェックシートをポスティングしたり、新しいつながり方をどのようにしていくか悩みながら生活支援コーディネーターを中心に頑張っています。

先日二層協議会の皆さんに小川西町応援メッセージをお願いしたら、たくさんくれました。地域の方がそれを見て少しでも元気になってもらえればどの職員の想いです。こんな時だから笑顔で、みんなで支え合い、助け合い、今やれることをやってみよう、その中から新しいつながり方を見つけていきたいと思っています。

# コロナ下での子どもの状況と市民活動

## NPO法人こだいら自由遊びの会 プレイセンター・ピカソ、風鈴草子ども食堂 足立隆子

一旦落ち着いたときもあったが、現在もお新型コロナの威力は続いていて、連日上下する患者数を聞いたときに一喜一憂する毎日である。ただ、2月3月の情報が少なかった頃の不安に比べて、マスクなどの衛生用品不足が解消され、自衛意識の定着もあり、気持ちに余裕ができてきたように思う。

3月に予定していた中央公園隣接樹林でのプレーパーク開催に関して、開催を自粛するべきかスタッフで話し合ったが、小平市の感染者は非常に少ない状態だったので、検温と消毒を呼び掛け開催した。4月、5月は小平市が施設の貸し出しを許可しなかったため、必然的に開催を中止。6月は解禁されたため、7日、21日の2回開催した。学校にも行けず、外でも遊ぶことを制限されていた子どもたちのストレスの方が問題視されていたこともあり、6月は毎回160人を超える参加者がいた。勿論ハンモックなど、密になりそうな遊具はやめて、受付でも注意喚起をした。8月も3日間開催した。今年は夏休みが縮小されたため、例年より少なかったが、猛暑の中、連日100人を超える参加者からはとても感謝された。

ニュージーランドでは毎日政府の教育省のHPで、子どもたちの日常で気を付けることや、ストレスに負けないで乗り切るためのきめ細かいアドバイスなどの情報を国民に伝えていたという。首相からは子どもに直に語り掛けるなどの心のこもった励ましもあった。また、4月8日

には国連子どもの権利委員会の声明で「1日1回は戸外活動をする」ことを奨励していた。日本語訳もあったという。しかし、日本の親子にはほとんどこの情報は届いていなかった。毎日家の中に閉じこもり、ストレスをためざるを得なかった親子の何と多かつたことか。そんな中であっても、プレイセンター・ピカソの親たちは知恵を出し合い、会えなくても遊びをシェアしたり、時にはZOOMで励まし合っていたり、支え合いながら乗り越えていたのが印象的だった。全国にあるプレイセンターでも同じように、休み中仲間同士支え合っていたという報告が届いた。

現在でも市内の多くの子ども食堂が中止をせざるを得ないでいる。春休みの時期には学校給食を食べられない、日中の子どもの食事を用意できないなどの困難が生じていた。風鈴草子ども食堂では以前コミュニティーカフェをしていたaunさんに助けてもらい、お昼のお弁当企画を実施した。公的機関にこそやってほしいと切に願う。

三密になるためいつもの子ども食堂は当分開催できそうにないが、4月からはお持ち帰りの企画を続けている。高校生まで無料、大人300円で毎回50食を用意すると伝えているが、それでは足りず70食ほどに増やしている。定額給付金の一部を寄付して下さる方もいて、運営を継続していくための力になっている。温かいご支援に深く感謝している。

## 「分かった会」、9月3日再開！

### 奈良 勝行

コロナウィルス感染症パンデミックにより3月初旬から休講していた「分かった会」は、半年ぶりに9月3日(木)に講座を再開しました。これに先立ち、8月初旬に生徒たち(わずか8人!)に、「オンライン講座」か「従来通り

の講座」のどちらを望むかなどのアンケート調査を行った結果、大半が後者を選んだので、これまで通り公民館での対面講座を行うことになりました。

「コロナ」の影響でこれまで生徒の新規募集をせず、



現在登録している8人(中三生6人、中一・1人、中二・1人)で3日から再開しました。通常の木曜日の講座に加えて、例年9月から翌年2月までの半年間は中三生を対象に火曜日に「あすなる会」を開いています。ですから今年9月8日(火)からあすなる会を開催しました。来年2月下旬の都立高校入試を目指して学力の増進を目指します。

また、コロナ禍により公民館は、通常の定員の半数しか入室を認めない、生徒一人が机一つの席に座る、講師は対面ではなく横から1mの“social distancing”を保って指導する、マスクを常時着用する、窓を開放する、軽食は認めないなどの規制を求めています。そうした“不自由”を乗り越えて当面の間(終

息がいつになるか分からないが…)がんばるしかありません。

9月初旬、近くの五中に出向き、校長先生に生徒募集のチラシを担任を通じて各クラスの生徒に配布していただくようお願いをしてきました。といっても「コロナ定員」のため各学年数名の追加募集です。

生徒の様子でいうと、自分から講師に積極的に質問をするという姿勢になり切れていません。講師は生徒との対話を通じて学習への意欲を引き出し、徐々に学力を引き上げていく、という根気が必要になっています。

今後も「西ネット」の皆さんのご支援を得て運営していきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。[778字]

# NPO 法人地域福祉ネットワーク

## 第2こだま

### 高嶺 克子(第2こだまデイサービス)

第2こだまデイサービスでは、新型コロナウイルスの影響により7人の方が感染予防による自粛休暇を取られました。7名の自粛休暇は小規模のデイサービスには、とても痛手となりました。



<コロナ禍の前の中央公園での風景>

厚生労働省からの発表のもと小平市より、新型コロナウイルスの影響で休止中の利用者に対し、デイの2~3時間内の提供時間を使って、訪問するか、電話による安否確認等により加算されるという通達があり、第2こだまデイサービスでは、休止中の利用者さんたちの利用

日に1日2回電話連絡をし、家での過ごし方などの提案や、バイタルの測定、食事摂取状況、入浴、服薬、体操、散歩などを電話でアドバイスしながら勧めてきました。これにより、デイサービスでの最短時間2~3時間未満の単位数がとることができました。

自粛休暇中の90代女性の方で、近所の方に「デイサービスに通うなら夕飯持っていけなくなる。」と言われ2ヶ月ほど自粛されていましたが、どんどん体力と気力がなくなってしまう、デイサービスに通うことになったものの、一人での生活に不安が増し、施設に入所となりました。いつも散歩や食事を楽しみに来ている方だったので、この新型コロナウイルスが無ければ、現在もデイサービスに通いながら一人で暮らせていたでしょう。

高齢者が家に閉じこもっていけないと、よく耳にしますが、今回の自粛で実感しました。特に独居の方は、初めは頑張って体操したり、散歩したりと努力していましたが、やはり人との会話もなくなり、外に出る気力もなくなり体力が落ち、食欲もなくなり…と閉じこもっていくのです。だからこそ、デイサービスは必要なのだと改めて実感しました。

そして何よりも、ウイルスに勝つには、適度な散歩とバランスの良い食事に、笑うことが理想的だとテレビで聞き

ました。散歩、食事、笑いこれらを兼ね備えてるのが第2  
こだまデイサービスです。

また、第2こだまの行事になっている外食や外出(植  
物園や昭和記念公園など)が全て中止となっています。  
特に外食は、普段、なかなかいけないうちが多いので、と

でも喜んで頂いている行事となっています。早く、通常  
に戻れるように祈ります。これからも、ウィルスに負けな  
いように第2こだまデイサービスは続けられるように頑張  
ってまいります。

# 新型コロナウイルス禍における デイサービスの取り組み デイサービスオーフタかの台

## 細見 吉輝

たかの台の交差点で2003年より活動しているデイサ  
ービスです。定員は23名、小規模な施設なので、穏や  
かでありながら和気あいあいと活気のある通所活動が  
続けて来られていました。路線バスの車窓からご覧にな  
ったことのある方もいらっしゃるでしょうか。道路に  
面した大きなガラス窓の「いつも麻雀やってるあそこ」で  
ピンとこられる方も多いと思います。

良い機会をいただきましたので、コロナ禍中に起きた  
出来事と我々の取り組みについて、振り返ってみます。  
1月末にWHOより「国際的な緊急事態」宣言。この頃か  
ら利用控えが始まります。3月頭「臨時休校の要請」と「3  
密回避」の呼びかけ。3月中頃には稼働率が50%前後  
に成り、衛生用品不足の中でしたが、ご利用者様全員  
にマスク着用をお願いをします。4月頭「緊急事態宣  
言」と「人との接触8割削減」。これを受けて全ての行事  
とボランティア受け入れを中止。休業も検討しましたが  
必要とくださる方が多く、活動継続を決めます。GW  
を控えて趣味活動の中止と、可能な方々への自宅対応  
を相談。独居や高齢世帯、入浴介助が必要な方のみ  
への御対応と成ります。再開に向けて関係者全員分の  
フェイスシールドを購入し試用開始。テーブルと麻雀卓



用のアクリルパーテーションを設計し注文しましたが、納  
品されたのは発注してから2ヶ月後の6月末。施工完了  
を待って趣味活動の一部再開。ドア開放での換気対応  
の為、断熱フィルム施工。熱中症の心配は無くなりました  
が、室内からの快適な景色や解放感も無くなりました。  
これに加えて手洗いや消毒などの基本的なコロナ対策  
で乗り切ろうとしておりますが、運良く感染者が出てい  
ないだけで最適であったのかは正直わかりません。

今一番の困り事はスタッフの欠員が続いてしまってい  
る事。9月より利用定員を20名に引下げ、なんとか乗り  
切れないかと悩んでいます。どなたかお力を貸して頂け  
ないでしょうか。

## 10月26日再開—今度こそ定着を目指して

### 南西部地域コミュニティタクシー実証実験

小平市で唯一コミュニティタクシーが運行されていな

い南西部地域、つまり西ネットの地域ですが、本年度 1

月からの再試走では新型コロナウイルスの影響で、4月に休止となっていました。8月19日の協議会において11月からの再度の試走が話し合われました。

小平市の基準では毎日の平均で50人以上乗ることが実施の条件となっています。前回の試走では30人台で推移し、実施に至りませんでした。今回はコースを変えての試走ということになりました。コースは以下の通りです。1回は乗ってみて下さい。ただし新型コロナウイルス

の感染を避けるために消毒などを行いながらになると思います。

鷹の台駅前→商店街→創価学園西→小平五中→小川1丁目児童館→小平西高校→若葉台団地入り口→上水新町地域センター→南大病院→稲毛屋→小川1丁目児童館→小平五中→白梅学園東→鷹の台駅前(40分)

## コロナ禍の地域づくりを思いつつ、身近な話題ミソヒト文字に 金田利子(東京国際福祉専門学校)

- ◆ 安心して感染できる町づくり 今必要なコロナ対策
- ◆ マイナスをプラスに替えるしたたかさ オンライン力みんなのものに
- ◆ ピンチをばチャンスに替える経験を ズームで語る西ネットびと
- ◆ そのための力となれる公民館 閉ざすのでなく開いて知恵を
- ◆ 一月に4万以上稼いだら 補助金出ぬと休み取る店\*  
(\*レストラン)
- ◆ コロナ禍の「学生支援給付金」 朝大排除は学びの差別
- ◆ コロナ禍が過ぎ去るころの西ネット さらに居場所に必ずやなる

## 9月小平市議会でのご検討のお願い

小平市議会議員様

2020. 9. 15

小川まちづくりを考える市民の会  
世話人代表 野上 隆  
事務局 西 克彦

新コロナ禍の続く中、日ごろのご活動に敬意を表します。

現在、小川駅西口地区市街地再開発事業と同地区再開発ビル公共床マネジメントとの二つが、「長期の工事期」に入るための具体的な準備段階を迎えています。私たちとしてもこれまで、市民・専門家などの意見も参考にしながら、「市民意見の提案」＝市民参加のために努めてきました。コロナ禍の下での市民の検討は、「集まること自体の困難」を始め、かなり難しいものでした。

そういう状況にあって、「市の計画」では、今の「市街地再開発ビルなどの建設計画案」と、そのビルの中の「4・5階の公共床マネジメント計画案」が、この10月ごろには基本設計を「決定」し、さらに次の実施設計へと進んで行こうとしています。

私たちは、今のままの案ではあまりにも検討不足であり、市民にとっては、「一方的な押し付け計画」ともいわざるを得ない状況があると思っています。今回の一般質

問の中でも、「小平元気村おがわ東」から移転しても、専用の場所がないなど、条件が悪くなるのではないかと切実な質問・要請も出されていました。計画案は、今議会での質疑や修正がないと今のまま進んでしまうことになりましょう。

そこで、議員各位にせめてこの9月の特別委員会等での深いご審議、ご検討を心からお願いし、二つの特別委員会別にして、以下に書かせていただきました。ぜひ一つの参考にしていただきたいと思います。

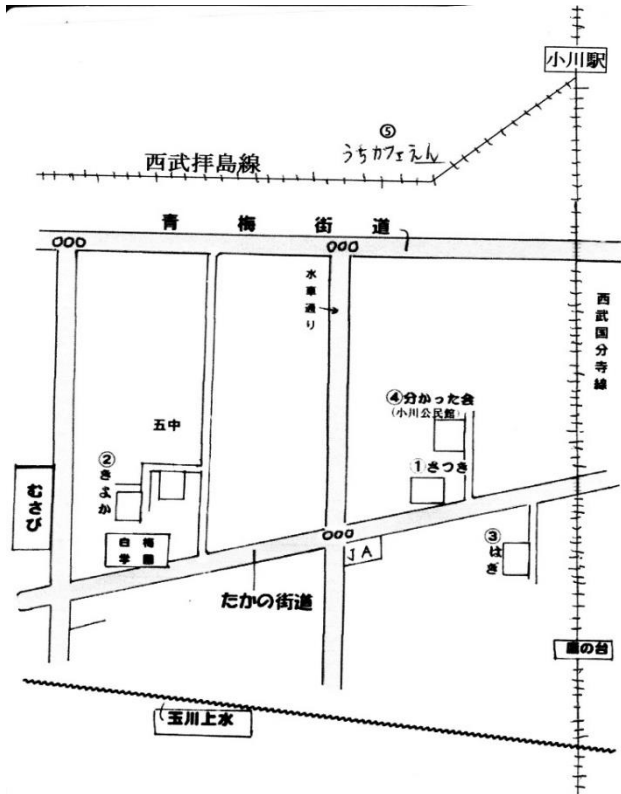
両方にまたがらざるを得ないお願いもあるかと思えます。よろしくお取り計らいのほどお願いいたします。

そして、これらの案は、新コロナもあって、市民への途中の説明が不足しているとして、より具体的に見えてきた段階で、再度市民への「パネル展示説明」だけでなく、時間をとった丁寧な責任ある説明が実現できるよう、お願いいたします。

**皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?**

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**  
毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (移転先検討中)  
問い合わせ: 渡辺 穂積  
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**  
毎週月曜 11:30~15:30  
問い合わせ: 石川 貞子  
TEL: 090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**  
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00  
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ **「分かった会」小中無料学習教室**  
毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館)  
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)  
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ **子育てサロン「うちかフェェん」(小川町)**  
毎週月・水 13:00~15:30分  
問い合わせ: 伊藤絹代  
TEL: 090-5441-6219



**イベントの予定**

(コロナウィルスの影響でほとんどの計画は未定です)  
 10月4日(日) 10時~プレイパークの話 (小川公民館) 武藤陽子氏  
 10月24日~31日 元気村まつりウィーク  
 10月23日(金) 19時~19時~21時 ZOOM開催「スウェーデンの高い投票率を支えている子どものころからの主権者教育について」  
 申し込み先: kusano@shiraume.ac.jp

**西ネットの今後の予定**

- 大学世話人会: 10月13日(火) 18時~
- 地域世話人会: 11月10日(火) 18時~
- 大学世話人会: 11月24日(火) 18時~
- 大学世話人会: 12月08日(火) 18時~
- 懇談会: 12月08日(火) 18時~
- 大学世話人会: 01月12日(火) 18時~

西ネットの世話人

| ブロック | 地域世話人                                 | 大学世話人                  |
|------|---------------------------------------|------------------------|
| 1    | 西 克彦・丸山安三                             | 瀧口 優・杉本豊和<br>福丸由佳      |
| 2    | 足立隆子・芳井正彦・<br>今野志保子                   | 午頭潤子・土川洋子<br>吉村季織      |
| 3    | 石川貞子・大内智恵子・<br>久保田進・穂積健児・<br>杉浦博道・吉田徹 | 金田利子・草野篤子<br>西方規恵・牧野昴哲 |
| 4    | 桜田 誠・萩谷洋子<br>福井正徳・細江卓朗<br>渡辺穂積        | 井原哲人・森山千賀子             |
| 全体   |                                       | 奈良勝行・長谷川俊雄             |

**お願い:** この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

**投稿募集:** このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください (奈良勝行)。

メール: [ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp](mailto:ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp)

**編集後記:** 「小平西のきずな」も今回で 35 号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、8年版この小平西地域の動きを伝えてきました。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています (瀧口)。